

十和田の火山活動解説資料（令和元年10月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2、図3）

4日に中湖^{なかのうみ}付近を震源とする火山性地震が一時的に増加し、日回数10回を観測しました。このうち最大規模の地震は、20時27分頃に発生したマグニチュード2.8の地震で、十和田周辺の施設への聞き取り調査によると、この地震により体を感じる揺れがあったとのことです。その他の観測データには特段の変化はみられず、火山活動の活発化は認められませんでした。19日にも同じ場所を震源とする地震を7回観測しましたが、期間を通して火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 十和田 中湖周辺の状況（10月15日）

・ 銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年11月分）は令和元年12月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

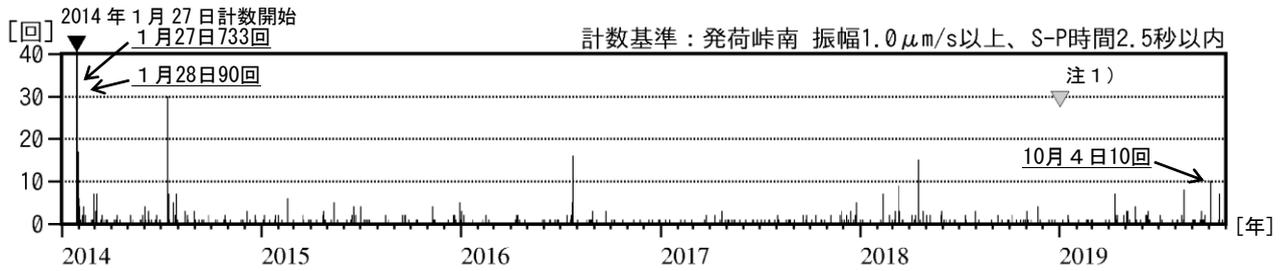


図2 十和田 日別地震回数（2014年1月～2019年10月）

- ・地震の計数基準観測点の変更は次のとおりです。
計数開始 2014年1月27日～ 防災科学技術研究所小坂観測点
注1) 2019年1月1日～ 発荷峠南観測点

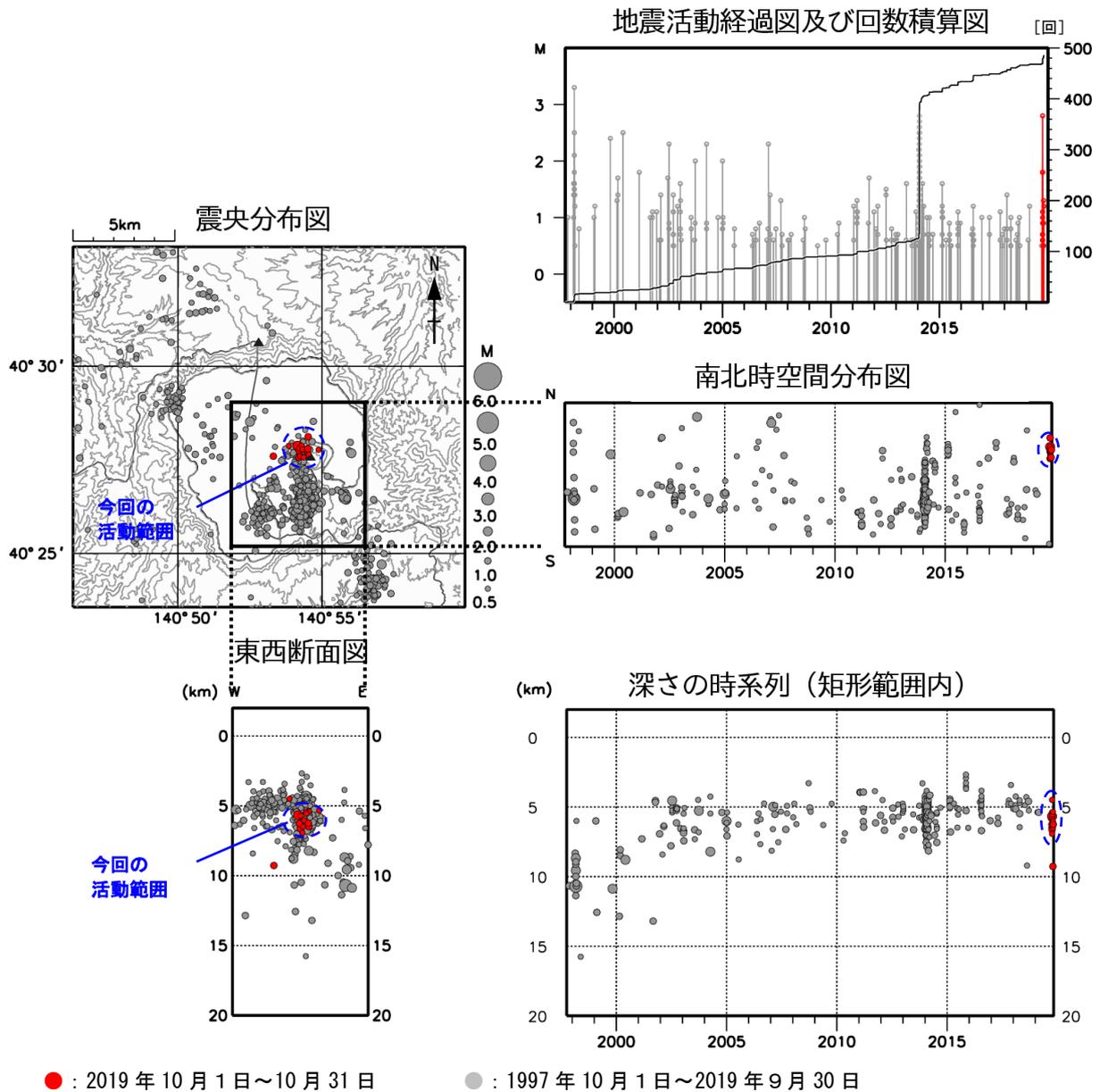


図3 十和田 広域地震観測網による十和田周辺の地震活動図（1997年10月～2019年10月）

- ・今回（4日及び19日）の活動範囲は中湖付近（青破線）です。
- ・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

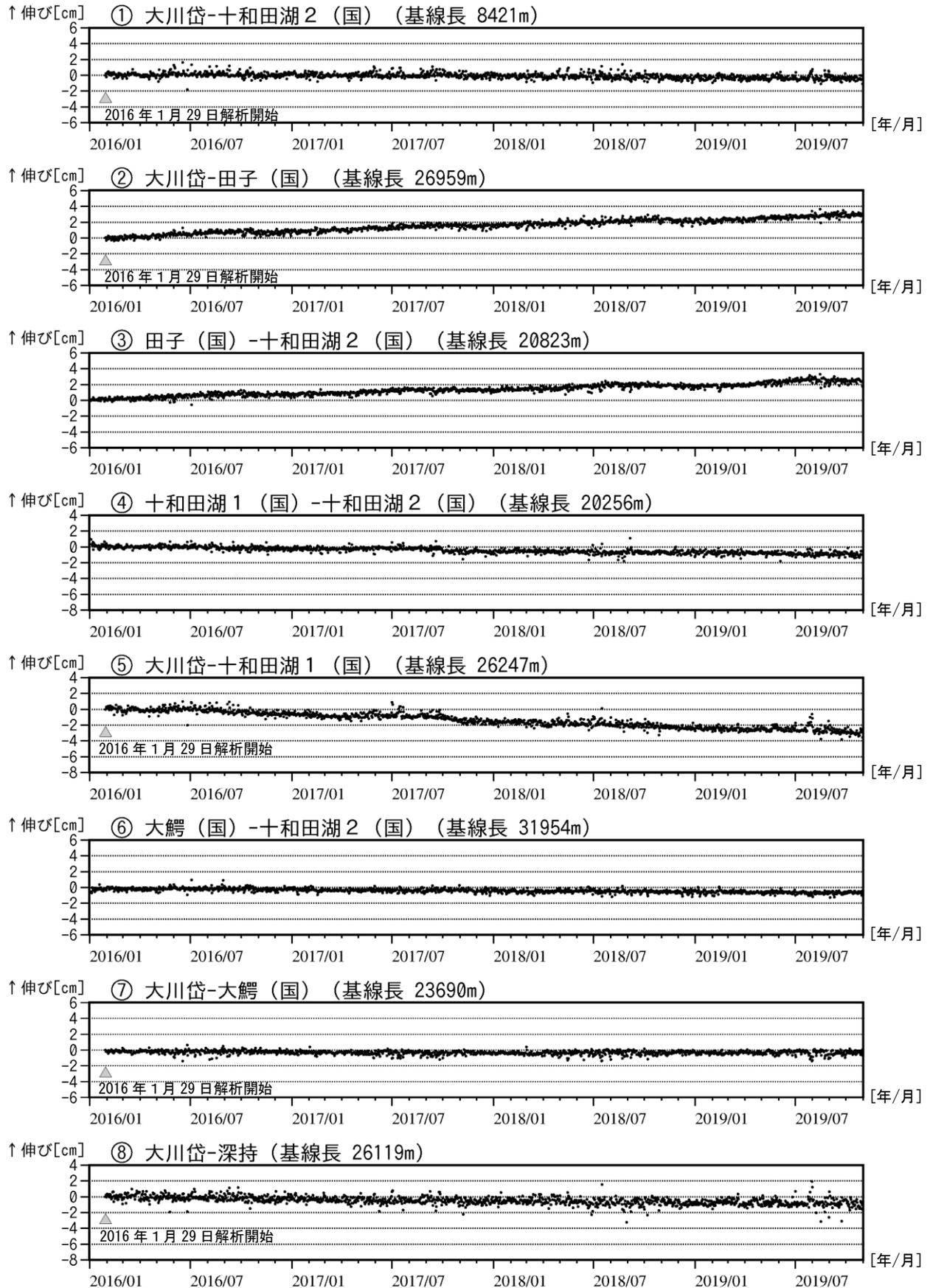


図4 十和田 GNSS 基線長変化図 (2016年1月～2019年10月)

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・①～⑧は図6のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

